

激戦区・東京湾のタイラバ乗合で TGピンピンスイッチは 奥の手になるか? を検証してみた。

当日の動画をYouTubeで観る



ホラッ!

●12月下旬より配信予定
※公開日は前後する可能性がありす

★「ピンピンスイッチでスイッチ入りました！」渋い状況や潮下でもアタリを出させることができるのが強味とヨッシー



▲チャートカラーでの2枚目



TGピンピンスイッチ
●重さ=35g、45g、60g、80g、100g、120g。
●色=全8色



TGピンピン
TUNGSTEN
TGピンピンスイッチ
SWITCH



▲初めてのタイラバで記念の1枚目



▲諦めずに巻いてうれしい1枚



▲1投目の着底直後に良型登場
▶こちらも初タイラバ
◀常連はスピニングタックルで確実に釣る



●落ちダイの季節到来を告げる3.4キロ

12月上旬の大潮より、金沢八景・野毛屋の黒川勇治船長は「落ちのマダイ」を狙い始めた。

大ダイが頻繁に出るチャンスとあつて、これから春にかけて東京湾のタイラバ船は大いに賑わう。

両舷にスラリと釣り人が並ぶ乗合船では、タイラバの種類が決め手になることがある。大きなシルエットでアピールか、逆に、神経質なマダイに口をかわせるために小さく細くするか……。

落ちダイ狙いの初日、本誌でもおなじみのジャックカールソルトワイールドスタツフ・ヨッシーこと吉岡進さんが使ったのは一風変わったフォルムの「TGピンピンスイッチ」。タイラバともルアーとも言えるタングステン製の擬似餌だ。

この「TGピンピンスイッチ」だけで、激戦区・東京湾のタイラバ乗合を一日釣り切ってみたらどうなるのか? が、この日のテーマ。結果はご覧のとおり確実に本命をキャッチ。さらに詳しい模様やピンピンスイッチの使い方などは、YouTubeつり情報チャンネルにて動画でお届けします!



▲海堡の南側から久里浜周辺まで、水深40~70メートルをくまなく探った

●取材協力=東京湾奥金沢八景・野毛屋 ☎045・781・5964
「迷っても変えずに巻き切るのが大切だね」と黒川 勇治船長(右)